

木曾地域の高校の将来像を考える協議会
第3回会議 次第

令和元年12月20日(金) 18:00～
木曾町文化交流センター大会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 報 告

4 議 事

(1) 木曾地域における高校の学びのあり方と具体的な姿について (意見交換)

(2) 今後の日程について

(3) その他

5 閉 会

木曾地域の高校の将来像を考える協議会委員

No.	氏名	選出区分	役職名	備考
1	原 久仁男	町村長	木曾広域連合長(木曾町長)	会長
2	向井 裕明	町村長	南木曾町長	
3	須賀 幸弘	町村教育長	木曾郡町村教育委員会連絡協議会教育長会長	
4	加藤 晋悟	産業界・工業	長野県建設業協会木曾支部長	
5	櫻井 秀夫	産業界・商業	長野県商工会連合会木曾支部長	副会長
6	田屋 万芳	産業界・農業	木曾農業協同組合代表理事組合長	
7	野村 弘	産業界・林業	木曾官材市売協同組合理事長	
8	中村 宏	学校関係者	木曾青峰高校長	
9	小幡 正樹	学校関係者	蘇南高校長	
10	奥原 由孝	学校関係者	中学校長会長(開田中)	
11	井出 寿一	学校関係者	小学校長会長(福島小)	
12	白洲 剛	PTA関係者	高校PTA会長(木曾青峰)	
13	新谷 祐二	PTA関係者	高校PTA会長(蘇南)	
14	牛丸 梓(あずさ)	PTA関係者	木曾郡PTA連合会会長(木祖中)	
15	上田 浩之	PTA関係者	木曾郡PTA連合会副会長(開田小)	
16	水野 多恵子	PTA関係者	木曾郡PTA連合会副会長(大桑中)	
17	清水 幾代	地域の実情に応じた者	地域諸教育機関代表(信州木曾看護副校長)	副会長
18	中坪 成海	地域の実情に応じた者	木曾地域振興局長	
19	栗屋 佳洋	地域の実情に応じた者	木祖村教育委員	
20	越原 啓子	地域の実情に応じた者	元王滝村子ども育成会会長	

幹事会

No.	氏名	選出区分	役職名	備考
1	植原 一郎	町村教育長	上松町教育長	
2	伊藤 信男	同上	南木曾町教育長	
3	山瀬 明弘	同上	木曾町教育長	
4	青木 信一	同上	木祖村教育長	
5	栗空 敏之	同上	王滝村教育長	
6	須賀 幸弘	同上	大桑村教育長	

事務局

No.	氏名	選出区分	役職名	備考
1	駒瀬 隆	県教委	教育主幹兼高校改革推進係長	
2	宮澤 直哉	県教委	高校改革推進係主幹指導主事	
3	松下 幸一	町村教委	南木曾町教育次長	
4	上相 敏朗	町村教委	木曾町教育次長	

【経過報告】

木曾地域の高校の将来像を「語り合う会」（意見聴取）について

1【目的】

木曾地域の高校の将来像を考えるにあたり、様々な考え方や経験を有する住民、各種団体などから意見をお聴きし、内容を木曾地域の高校の将来像を考える協議会委員にフィードバックすることで協議会における議論に活かすことを目的に行った。

2【日程】

日 時		場 所	参集者
8月29日	(木) 14:00～	木曾町文化交流センターホール	産業界関係者 (商工会、製造業、農協、 森林組合等)9名
8月30日	(金) 14:00～	木曾町文化交流センター大会議室	高校同窓会、木曾の教育 を考える会 8名
	18:00～	木曾町文化交流センター大会議室	郡内小中学校保護者 郡内中学校長 6名
9月6日	(金) 18:00～	南木曾会館	郡内小中学校保護者 蘇南高等学校保護者 郡内中学校長 9名
9月13日	(金) 18:00～	木曾町文化交流センター大会議室	郡内小中学校保護者 郡内中学校長 7名

3【主な意見】

1) 2校存続

- ・ 木曾郡は広く、高等教育の機会の均等ということからも、郡内において高校が2つないと学校を選ぶことができない。
- ・ 中山間地域においても学びの場が必要。
- ・ 高校がなければ将来を担う人材がすべて外に出てしまう。
- ・ 2校あることによって地域の交流や連携を深めることができる。
- ・ 高校は社会への出口の一端を担っていることを考えると、地域に高校があるなしが地域経済の活性化と大きく直結する。
- ・ 地元の高校生が活躍することが、地域を元気にしてくれる。
- ・ 木曾地域の課題を高校生に学んでほしい。木曾の良さ、木曾の課題を将来にわたって考えていくような素地をつけていく必要がある。

2) 地元高校の良さ、魅力の発信

- ・ 木曾青峰高校や蘇南高校には、特色ある学科や部活動があるのでそこを活かし全国から募集するような施策を。
- ・ 山に関して、木に関して興味のある人を引っ張ってくるような施策を。
- ・ 木曾の魅力を伝え、寮を活用する。

3) 学科の再編と普通科専門科のバランス

- ・ 専門科の内容を再検討し、高度な技術を習得できる授業内容を構築し、全国の先駆けとなる専門科を目指す。全国から生徒を募集する。
- ・ 地元企業に根付いた科（工業科）も検討して頂ければ、卒業生も地元に残って地域貢献をしてもらうことができる。
- ・ 林業にこだわっている場合ではないと思う。子どものことを思って考えなければならぬ。
- ・ 中学生や保護者の要望に応えた学科編成になっていない。木曾地区で普通科を目指すことなく外へ出る生徒を生んでいる。
- ・ 高校3年間の中で自分の方向性を決められるということが重要であって、中学生のうちに学科を選択しなければいけない状況はかわいそう。普通科がもっと増えればありがたい。
- ・ 英語に特化した教育など、総合学科でも他とは違うカラーを出せるとよい。

4) 少人数学級

- ・ 35人学級、あるいは30人学級という高校をつくってもいいのではないか。
- ・ 中山間地については、少人数でもやっていけるような体制をとっていただきたい。

1 平成 30 年度末 郡外進学者数と主な理由

学科等	人数	学校名 () は人数	主な理由
公立普通科	16 名	蟻ヶ崎(5)、県ヶ丘(4) 深志(3)、明科(1) 諏訪二葉(1) 高遠(1)、中津(1)	・国立大学進学を考え実績の多い高校を選択。より高いレベルでやりたいという思いから。 ・親が行かせたかった。姉が行っているから。転居のため。
公立専門科	5 名	坂下(2)、中津商(1) 京都(1)、沖縄(1)	・服飾、福祉、ビジネス科など専門の勉強をしたかった。
公立総合学科	9 名	塩尻志学館(9)	・食品加工、CGなど専門の勉強ができるため。 ・固定化された人間関係を変えたい ・サッカーをやるため。 ・保護者の母校。あこがれ。 ・姉が行っているから。転居。
私立全日制	14 名	松商(4)、松本第一(1) エクセラン(3) 東海大諏訪(2) 長野日大(1)、長聖(1) 帝京第三(1)、阿木(1)	・進学の個別支援が充実している。 ・個性に合わせた教育がある。 ・専門のスポーツをやるため。 ・商業と吹奏楽の両立のため。 ・あこがれ。
私立通信・定時	7 名	つくば開成(3) 信濃むつみ(2)、中京(1) KTCおおぞら(1)	・個にあった学習ができる。 ・個別の支援が受けられる。
合 計	51 名		

2 木曾青峰高校・蘇南高校に郡外から進学した生徒数と進学理由(令和元年度在校生)

学校名	学科名	1 年	2 年	3 年	計	主な理由
木曾青峰高校	普通科	1	0	0	1 名	・寮があるため。 ・林業を学びたい。 ・相撲部があるため。
	理数科	1	4	1	6 名	
	森林環境	10	7	5	22 名	
	インテリア	2	2	5	9 名	
	合 計	14	13	11	38 名	
蘇南高校	総合学科 (県内から)	4	6	3	13 名	・バトミントン部があるため。
	総合学科 (県外から)	16	21	21	58 名	・総合学科であるから。 ・保護者、親族がOBであること などから。 ・人間関係等の課題で。
	合 計	20	27	24	71 名	

3 2025年・2030年の予想

	中学卒業生数 A	郡外進学者数 B	郡外進学者率 B/A	郡外からの入学者数 C	郡内卒業生数に対する 比率 C/A	郡内高校入学者数 ()内は定員比	募集定員
2017 (H29)	215名	36名	15%	33名	15%	212名 (88%)	240名
2018 (H30)	214名	51名	24%	34名	16%	215名 (90%)	240名
2025 (R7)	196名	39名	20%	31名	16%	188名	
2030 (R12)	155名	31名	20%	25名	16%	149名	

※割合、人数の算出は、少数第一位を四捨五入

※2025年、2030年（網掛け部分）については、2017年、2018年の割合を基に人数を算定。

郡外進学者率、郡外からの入学率については、2017年、2018年の平均値を利用。

第3回木曾地域の高校の将来像を考える協議会 議論のテーマ

【「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」（平成30年9月）より】

○旧第10通学区 再編計画の方向

- ・この地区の今後の少子化の進行を考えると、学校規模の縮小を見据えた地域全体の高校の将来像について検討を進め、中学生の期待に応える学びの場を確保していく観点から、地域の合意形成を図っていく必要がある。
- ・木曾青峰高校は募集定員160人で、普通科、理数科、森林環境科及びインテリア科が各1学級となっており、また、蘇南高校は募集定員80人で、総合学科2学級となっている。少子化が進行する中、どのような学びの場を構成していくか慎重な検討が必要である。
- ・これらの観点を踏まえ、普通科と専門学科のバランスを考慮しながら、地域と密着した学びを強みとする中山間地存立校を配置していくことが考えられる。

【発言していただきたいポイント】

○新たな学びの推進

- * 魅力ある学校づくり
- * 特色ある学科、学びの推進
- * 地元高校の良さ、魅力の発信
- * 子ども達のコミュニケーション力の向上

○再編・整備計画

- * 2校存続への思い
- * 少人数による部活動の課題
- * 教育機会の平等な保障
- * 少人数教育への期待
- * 普通科・専門学科のバランスと学科の再編

木曾地域の高校の将来像を考える協議会 全体スケジュール

時期	県教委スケジュール	木曾地域の会議等日程
2018年9月	「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」決定	
2019年1月		○第1回協議会(1月23日) 会長・副会長選出、全体スケジュール等の決定
2019年5月～6月		○第2回協議会(7月3日) 意見聴取方法、意見聴取者の決定
2019年8月～9月		○有識者への意見聴取(2019年8月29日から9月23日まで計5回) 意見聴取終了後、委員への周知、聴取内容の公表(HPなど)
2019年10月～12月		○第3回協議会(12月20日) 意見聴取結果をまとめたものを提示し、それに基づいて各委員から意見を聞く。
2020年2月～3月	再編・整備計画(一次分)策定(3月)	○第4回協議会(2月) 委員の意見を踏まえ「木曾地域における高校の学びのあり方と具体的な姿(素案)」を示し議論いただく。
2020年4月～5月		○パブコメにより地域住民からの意見を聞く(5月)
2020年7月～8月		○第5回協議会(7月～8月) 成案決定
2020年9月		○「木曾地域における高校の学びのあり方と具体的な姿」を、県教委に提言する。
2021年3月	再編・整備計画確定	
2030年3月	再編・整備完了	

* 協議会開催前には、幹事会を開催する。